

脚本・出演

中村敦夫

原発の町で生まれ育ち、
原発で働き、そして
原発ですべてを失った。
これは、何かの陰謀でねえべか？
老人は謎解きの旅に出る。

朗読劇

線量計が鳴る

元・原発技師のモノローグ

2020年 3月7日(土) 14:00 開演 (13:15 開場)

会場：あーすぷらざ 2F プラザホール (JR 本郷台駅下車徒歩 3 分)

チケット代：前売券 2,000 円 / 当日券 2,300 円

学生 500 円 / 中学生以下 無料 (全席自由)

■主催 中村敦夫朗読劇「線量計が鳴る」上演委員会

- ・ぶんぶんトークの会
- ・NPO法人ベルダレルネーヨ
- ・(有)ネバリ・バザーロ
- ・NPO法人未来塾

■後援 福島原発かながわ訴訟原告団
福島原発かながわ訴訟を支援する会

■前売り券お買い求め

ベルダ(あーすぷらざ 2F) TEL:045-890-1447

<http://verda.bz> こちらからもお買い求めいただけます

■前売り券予約・お問合せ

ぶんぶんトークの会事務局：TEL:090-2650-8240

Email:bunbuntalk@yahoo.co.jp

ネバリ・バザーロ事務所：TEL:045-891-9939

Email:common@nbazaro.org

◎予約された方は下記の振替口座にチケット代をお振込み
ください。入金確認後、チケットを郵送いたします。
口座番号 00250-6-106873 (ぶんぶんトークの会)
(振り込み締切日 2月28日)

※満席になり次第、予約受付を終了いたします。

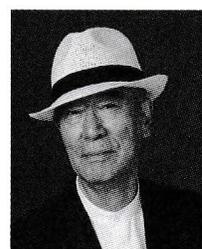
朗読劇 線量計が鳴る

脚本・出演 中村敦夫

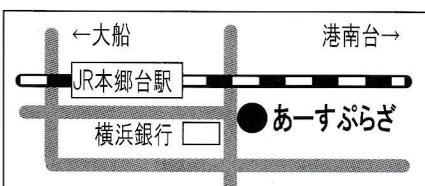
2020年3月11日——東京電力福島第一原子力発電所の事故から10年目になりますが、今もなお5万人近い人々が避難生活を余儀なくされています。しかし、放射能で汚染された大量の土が最終的な処分場も決まらないまま被災各地に積み上げられ、汚染水が海に垂れ流され続けている一方で、原発事故への人々の関心は薄れてきているのではないのでしょうか。

中村敦夫さんが演じる元原発技師の老人は、事故がなぜ起きたのか、その背景と本質を明らかにしていきます。「右向けといわれれば右向き、左といわれれば左、おれはもうそういう日本人にはなりたくねえんだ」。中村さんが少年時代を過ごしたいわきの訛りで語る原発への怒りが、私たちの胸に深く鋭く、突き刺さります。

プロフィール



会場：あーすぷらざ2F
プラザホール



JR根岸線 本郷台駅より徒歩3分
住所：横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1
TEL：045-896-2121

1940年、東京生まれ。幼少期に福島県に疎開。小中学校を過ごし、東京に戻って都立新宿高校を卒業、東京外国語大学に入学。演劇に興味を持ち大学を中退、劇団俳優座に入る。1972年、主演した「木枯し紋次郎」が空前のブームになり、その後数多くのドラマに主演、脚本や演出でも活動する。1984年にはTV情報番組「地球発22時」のキャスターに起用され、1998年、参議院東京選挙区から立候補して当選。2000年、「さきがけ」代表に就任。2002年には党名を「みどりの会議」に変え、日本最初の環境政党を作ろうと全国の組織化に奔走。2004年、「みどりのマニフェスト」を掲げ、10人の候補者を擁立して参議院比例代表で闘ったが敗退。政界引退を表明する。2007年から3年間、同志社大大学院で講師を勤め、環境社会学を講義。現在は日本ペンクラブ理事、環境委員を務めている。2012年には日本ペンクラブのチェルノブイリ視察団に参加した。小説『チェンマイの首』、講義録『簡素なる国』など、著書多数。

主催団体のご案内

ぶんぶんトークの会

鎌仲ひとみ監督の映画『ミツバチの羽音と地球の回転』上映を機に、原発のない未来をつくるために市民ができることは何かをともに考え、共感する人の輪をつくりたいと、2011年10月に栄区で活動をスタート。原発をテーマに映画会や学習会などを開催しています。

NPO法人 ベルダレルネーヨ

ネパールの子どものための教育支援を目的として1991年に活動を開始しました。その後、ネパリ・バザーロと協働で国内外のフェアトレード推進のためのセミナー開催などをつつ、東日本大震災支援やネパール大地震支援活動を展開してきました。

NPO法人 未来塾

広く一般市民に対して、伝統的文化や技術、芸術、音楽、スポーツ等の伝承、振興を目指し地域社会教育や学習会を行い、健全かつ豊かな市民としての人間形成に寄与することを目的として、2005年に設立、横浜市を中心に活動しています。

(有)ネパリ・バザーロ

ネパールで厳しい生活に苦しむ人々の収入向上を目指し1992年設立。ハンディクラフトや食品の企画輸入により自立を支援してきました。2017年、沖縄での産業創りと福島の子どものための保養支援のため「沖縄カカオプロジェクト」をスタートしました。